

# 社会科

## 1 社会科における学習指導の在り方

社会科では、問題解決的な能力の育成を重視する観点から、3分野の学習を通して、学習指導要領の目標に示されている「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と「社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する見方・考え方・調べ方」を身に付けることが重要である。

そこで、様々な地域や時代の特色、現代社会の特色、政治的事象や経済的事象の意義や意味、関連をとらえるために、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習などが授業に取り入れられることが重要である。そして、このような学習を通して各分野の学習対象に対する「関心を高め」「資料を活用(あるいは収集、選択)」し、「多面的・多角的に考察」して「公正に判断」する力や、追究し考察した過程や結果を「適切に表現する能力」の育成が求められている。換言するならば、問題解決能力とともに、解決した過程や結果を表現する力の育成が求められている。こうした社会科の授業で養われる力を的確に評価することが必要となる。

## 2 社会科における評価規準作成上の留意点

評価規準を作成するに当たっては、社会科では、指導すべき内容が規定されているので、指導の過程でどのような資質や能力を育成すべきかを再確認する必要がある。また、学習指導要領に示された各単元や内容のまとめりごとの目標と内容を分析するとともに実現させたい目標を明確にすることが大切である。

そこで、単元ごとの具体的な評価規準を作成する際には、教科の目標、各学年・分野の目標及び内容、評価の観点の趣旨を踏まえて、それぞれの観点をより具体化していく必要がある。すなわち、教科の目標に基づき基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に軽重を付けながら、多面的・多角的な見方や考え方が身に付くように評価を工夫していくことが大切である。

## 3 社会科における指導と評価の計画の作成

中学校第2学年地理的分野で学習する内容「世界の国々」(全12時間)を例に、評価規準の作成と、評価計画作成の実際について説明する。

まず、学習指導要領の目標及び内容から「単元の目標」を決める。それを基に、国立教育政策研究所の評価規準等を参考にしながら「単元の評価規準」を作成する。さらに、これを基に学習活動における「具体的な評価規準」を作成し、単元における指導と評価の計画を立てる。

### 【単元の目標例】

世界の国々から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。



【単元の評価規準例】(単元の目標を基に作成)

社会的事象への関心・意欲・態度 世界の国々に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。	社会的な思考・判断 世界の国々の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。
---	---

資料活用の技能・表現 世界の国々に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	社会的事象についての知識・理解 世界の国々の地域的特色とともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。
---	---



【指導と評価計画の具体例】(全12時間)(一部)

時間	主な学習活動	具体的な評価規準 (重点評価項目)				評価方法と評価を指導に生かす手だてと方策 ( : おおむね満足できる状況にない生徒への手だて) ( : おおむね満足できる状況にある生徒への方策)
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解	
第1時	・ アメリカ合衆国の人々は、どのような自然環境の中でくらししているのかを理解する。		【関心・意欲・態度】 アメリカ合衆国の学習に意欲的に取り組んでいる。			観察 発表 口絵や風景の写真に該当する地名が地図帳のどこにあるのかを具体的に提示する。 気候区分と人口分布図を重ね合わせて、気付いた点をまとめさせる。
第2時	・ アメリカ合衆国の民族や文化にはどのような特色があるのかを理解する。		【思考・判断】 人種や民族の違いが、人々のくらしに与えている影響を、多面的・多角的に考えようとする。			観察 ワークシート 人口構成のグラフからどのような人種や民族がいるのか、具体的に挙げさせる。 多種多様な人種の人々の暮らしに与えている影響を、教育、社会的地位、人種差別などの問題点についてまとめさせる。
第3時	・ アメリカ合衆国の農業や工業には、どのような特色があり、世界各国にどのような影響を与えているかを考える。		【技能・表現】 統計資料で農産物や工業製品の生産量を調べ、その特色をまとめることができる。			観察 ワークシート 自己評価カード 農産物の生産量や工業製品の国別貿易額をグラフから読み取れるようデータを活用し、日本など事例となる国を挙げて、世界各国に影響を与えていることをまとめさせる。

第4時	アメリカ合衆国が経済，文化などにおいて，どのような影響力を世界に及ぼしているかを考える。	<p>【知識・理解】 英語の国際語化，基軸通貨としてのドル，軍事力などの視点からアメリカ合衆国の世界における立場を理解できる。</p> <p>【技能・表現】 アメリカ合衆国の自然条件，農産物や工業製品の分布を絵やイラストマップに表すことができる。</p>	<p>る。 農産物や工業製品のデータを読み取り，農業や工業について，日本とアメリカの相違点をまとめさせる。</p> <p>観察 イラストマップ（作品） 自己評価カード イラストマップ作成の際，資料の丸写しにならないよう資料から読み取ったことを記載させる。 多国籍企業など，アメリカ合衆国に関する他の資料についてインターネット等で調べさせる。</p>
-----	--	---	--

#### 4 社会科における評価方法の工夫

評価を適切に行っていくためには，面接や観察などいろいろな方法を組み合わせて工夫していく必要がある。また，生徒による自己評価や生徒同士の相互評価などを生かすことや学習活動に協力

##### 【自己評価カード例】

（小单元「多様な地域から構成されるアメリカ」の例）

A：よい B：ややよい C：あと少し D：もっと努力を

観 点	評 価 項 目	評 価
関 心 意 欲 態 度	世界の貿易の状況やアメリカ合衆国の地 理的な事象に対する関心が高まったか。	A B C D
思 考 判 断	世界各国の農業や工業に与えている影響 を多面的・多角的に考えることができたか。	A B C D
技 能 表 現	生産量，輸出量，輸出相手国のデータ を読み取り，日本など世界各国に与えている 影響をまとめることができたか。	A B C D
知 識 理 解	アメリカ合衆国の農業，工業，貿易や援 助活動の現状を整理し，世界に与えている 影響について理解できたか。	A B C D
感 想 意 見		

した保護者，地域の人々，ゲスト  
ティーチャー等の感想などを参考に  
することも有効である。

さらに各单元や単位時間の終了  
時に，これまでの学習を振り返り，  
評価規準や観点別学習状況の評価  
に基づいて自己評価を行うことは  
大切である。このことにより，単  
元や単位時間の目標をより明確に  
意識させて自分を振り返らせたり，  
生徒一人一人をよりよく理解した  
りすることができるようになる。

また，生徒同士の相互評価と組  
み合わせることにより，自分をよ  
り客観的に見つめさせることがで  
きる。この方法は，特に，グルー  
プ学習など集団での学習形態をと  
る際に有効な手段である。

## 実践例

1 単元名 第2学年 歴史的分野「第6章 変わりゆくアジア」

### 2 単元の目標

徳川慶喜の大政奉還の意義を理解し、大政奉還による政権移譲について、意欲的に自分の意見をまとめ、発表させる。〔社会的事象への関心・意欲・態度〕

大政奉還による政権移譲について、資料に基づいて自らの意見を根拠付けたり、対立する意見に反駁するとともに、更に資料を活用することにより自らの立場を明確にさせる。

〔社会的な思考・判断〕

幕府と倒幕派の動きや当時の社会情勢などを示す資料を読み、その資料がどのような意味をもっているのかをとらえさせる。〔資料活用の技能・表現〕

大政奉還による政権移譲について、国内情勢と世界情勢を踏まえて、自らの意見を資料に基づいて説明させる。〔資料活用の技能・表現〕

欧米諸国の接近を背景として、動揺が激しくなる幕府政治の推移や開国と幕府の滅亡に至る国内の動きのあらましを理解させる。〔社会的事象についての知識・理解〕

### 3 指導と評価の一体化の工夫

#### (1) ワークシートの工夫

発問を明確に理解して自分の考えを記述してもらいために、ワークシートにまとめていく学習方法をとった。このワークシートは、そのまま討議活動でも発言の手持ち資料として使えるように作成されている。

評価についても、ワークシートを分析することにより、生徒の思考・判断の深まりや広がり、多面的なものの見方が読み取れ、それに対応した個別指導が行えると考えられる。

#### (2) 補助簿の活用

討議活動における発表者とその発表内容を簡単に記入する補助簿を作成した。討議活動では、あらかじめ、意見ごとに座席やグループを作成するので、どのような立場から、どのような意見が出されたのか、発表順に簡単に記入しておくことで、討議活動の論点や意見交換の流れもつかみやすい。また、討論活動後、発言に対して「こんなことも付け加えらるともっと良かった」という助言もできる。

#### (3) 振り返りの場面設定

授業の最後に、その時間の取組について、簡単な自己評価を行わせるように、ワークシートに自己評価の記入欄を設けた。授業の中で級友の学習態度と比べさせたり、自分の学習態度や意欲について考えさせたりする部分を設けた。

4 指導と評価の計画（「変わりゆくアジア」後半部分の徳川慶喜を中心とした学習）

(1) 学習の指導計画（3時間）

学 習 活 動	学習形態	時間	指 導 上 の 留 意 点
<p>第1時</p> <p>日米修好通商条約締結後の国内情勢・世界情勢について、説明を聞く。 後半のテーマを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>慶喜は大政奉還をするしかなかったのか、自分であればどうするか。</p> </div> <p>自由討論をする。</p> <p>資料を読み取り、ワークシートの記入をする。 自分の意見と根拠、自分の根拠の補強、自分の意見に対する反論と根拠をまとめる。＜一回目の意思決定＞</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>個</p>	<p>分</p> <p>10</p> <p>5</p> <p>10</p> <p>25</p>	<p>開国の影響、国内の尊皇攘夷運動の盛り上がりについて説明する。</p> <p>テーマに沿って自分の考えを自由に述べさせ、意欲化を図る。 自由討論を基に、自分の意見をワークシートにまとめさせる。また、他に必要な資料があれば挙げさせる。 教師は、ワークシートを回収し、整理し意見ごとにグループを編成する。</p>
<p>第2時</p> <p>グループを編成し、メンバー確認をする。 グループごとの意見集約をする。 討論をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大政奉還反対派立論</li> <li>・幕府朝廷合議派（中間派）立論</li> <li>・大政奉還賛成派立論</li> </ul> <p>班ごとに反対尋問に備えての話合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大政奉還賛成派反対尋問</li> <li>・幕府朝廷合議派（中間派）反対尋問</li> <li>・大政奉還反対派反対尋問</li> <li>・論点ごとの意見発表</li> </ul> <p>討論を行い、自分だったらどうするか 自分の考えとその根拠をまとめる。 ＜二回目の意思決定＞</p>	<p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>個</p>	<p>3</p> <p>7</p> <p>35</p> <p>5</p>	<p>事前にグループ編成表を掲示しておきグループ討論の意欲化を図る。</p> <p>班長は教師が指名し、班長を中心に、各班の意見や根拠を整理させ、発表に備えさせる。 最初の立論と反対尋問は班ごとに時間を設定し、短時間で主張や反駁をさせるようにする。立論と反対尋問終了後、教師の司会に基づいて論点ごとに意見を出させる。 幕府支持と朝廷支持の勢力の比較、朝廷に移行する場合、幕府側はどう対応するのか予想したり、合議制がどのような形になるのか予想させたりする。 また、諸外国はどのような動きをとっていたのか、など論点ごとに整理し、根拠を基に意見発表させてテーマに迫っていく。 討論によって、自分はどのように意見が変わったか、あるいは意見がどう補強されたか、明確に書かせるように指示する。</p>
<p>第3時</p> <p>前時の討論について、新しい事実や根拠を基に意見を述べる。 将軍慶喜はどうしたのか史実を確認する。史実と異なる意見の場合どうなるのか、根拠を基に意見を述べる。</p> <p>将軍慶喜はどうして大政奉還の判断を</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>5</p> <p>20</p> <p>15</p>	<p>前時終了後、調べたり、新しくわかったことがないか質問する。 教科書で確認させ、慶喜が大政奉還を行っていないかどうなっていたか、予想されることを発表させる。 予想はあくまでも史実を基に立てさせるようにする。また、朝廷に移行した場合の問題点などを挙げさせる。 討論に出てこなかった資料や根拠、歴</p>

<p>下したのか，調べた友達の発表を基に確認する。</p> <p>意思決定の学習について，感想を記入するとともに，本単元の学習について，自己評価する。</p>	個	10	<p>史事象を提示する。</p> <p>感想記入は，徳川慶喜の大政奉還の意思決定と自分の意思決定について，根拠を明らかにし自分の考えを記入させる。</p> <p>また，学習全体を振り返って，学習内容や自分の学習意欲や態度，話し合い活動への参加態度についても振り返らせる。</p>
---	---	----	---

## (2) 評価計画

時	学習過程	評価規準	評価方法
1	「徳川慶喜」の1回目の意思決定	<p>意思決定の授業のねらいを理解し，学習活動に意欲的に取り組もうとする。＜関心・意欲・態度＞</p> <p>これまでの流れや資料から，徳川慶喜の立場を理解することができる。＜知識・理解＞</p> <p>自分が徳川慶喜であればどうするか，資料を基に自分なりに考えワークシートにまとめ発表することができる。＜思考・判断＞</p>	<p>観察</p> <p>自己評価カード</p> <p>ワークシート</p>
2	討論・資（史）料の検討，2回目の意思決定	<p>資料を根拠にして，自分の意見を発表しようとする。＜関心・意欲・態度＞</p> <p>資料がもつ意味を理解（解釈）し，自分の発表に活用することができる。＜技能・表現＞</p> <p>討論によって，自分と異なる意見を理解し，共感もしくは反駁することができる。＜思考・判断＞</p>	<p>観察</p> <p>ワークシート</p> <p>自己評価カード</p>
3	史実の確認と意思決定の再検討	<p>徳川慶喜の大政奉還をめぐる出来事や史実を理解することができる。＜知識・理解＞</p> <p>新たに提示された資料が，どのような意味をもち，自分たちの主張にどう影響するのか考えることができる。＜技能・表現＞＜思考・判断＞</p> <p>歴史を見つめる自分の態度について，学習を振り返ることができる。＜関心・意欲・態度＞</p>	<p>観察</p> <p>ワークシート</p> <p>自己評価カード</p> <p>テスト</p>

## 5 本時の実際（2 / 3）

### (1) 本時の学習

単元の後半のテーマ「徳川慶喜は大政奉還するしかなかったのか，自分であればどうするか」についての討議活動

### (2) 目標

徳川慶喜の大政奉還について，その意義を理解し，大政奉還による政権移譲について自分の意見を主張することができる。＜関心・意欲・態度＞

大政奉還による政権移譲について，自らの意見を資料に基づいて根拠付け，対立する意見を資料に基づいて反駁し，更に資料を活用することにより自らの立場を補強できる。＜思考・判断＞



(4) 評価

資料を根拠にして、自分の意見を発表しようとする。〈関心・意欲・態度〉

資料がもつ意味を理解（解釈）し、自分の発表に活用することができたか。〈技能・表現〉

討論によって、自分と異なる意見を理解し、共感もしくは反駁することができたか。〈思考・判断〉

(5) 考察

本時では、「大政奉還しなければ、どのようにして倒幕派の勢力と対抗するのか」「大政奉還すれば、権力の座を追われてしまうだけではないのか」という基本的な部分を中心に討論が行われた。ここでは、大政奉還反対派が、具体的に幕府側のフランス支援の状況や幕府を支持する大名の状況を示す資料を詳しく効果的に提示することができず、根拠が明らかにできなかった。それに対して、大政奉還賛成派は教科書を用いて倒幕派の勢いを示す資料（藩政改革への成功、薩摩の軍艦、反射炉の建設）を提示し、大政奉還賛成派が優勢に終わった。幕府朝廷合議派は、幕府政治を生かしつつ、倒幕派の考えも取り入れるという意見であったが、幕府側が倒幕派の主張をどのように受け入れて政治をするのかが明確にできず、結果的に大政奉還反対派と同じように、しっかりとした主張をすることができなかった。

このような討論授業は、これまでも数回経験したことがあり、生徒たちは意欲的に取り組んだ。しかし、今回の「歴史学習における意思決定能力の育成」は、当時の状況をどこまで認識させることができるのかがポイントであったが、それを十分に認識できなかった生徒もみられた。その原因は史料（資料）が不足していたり、資料の解釈が困難であったりして、生徒が当時の状況をつかめなかったことに原因がある。この点について、教師も一緒になって資料収集したり、解釈について支援したり、「根拠」となり得る助言も行った。地理学習はインターネットや新聞・図書などを活用して、データや資料を見付けやすい、また、現代社会の事象であり、認識も深めやすい。その点、今回は歴史学習での意見発表ということで、根拠となるデータや資料を教科書や資料集以外から容易に見付けたり 提示したりすることの難しさを感じた。

## 6 成果と課題

(1) 成果

### 効果的な指導と評価

1単元の指導計画と評価計画を綿密に作成した上で授業に臨んだ。4観点それぞれの能力がバランスよく評価でき、生徒の力をみることができた。また、授業の作業中の机間指導や授業終了後、ワークシートや補助簿を工夫し活用することで、生徒の思考・判断の深まりや広がり、多面的なものの見方に対応した個別指導を行うことができた。

### 生徒の意識の高まり

事実だけを学ぶ授業と異なり、意思決定を行う授業に取り組むことによって、生徒の関心・意欲についても高まりが感じられ、積極的な学習活動がみられた。また、授業の初めに学習の目標を板書したり、ワークシートに考えたことや意見を記述式にまとめさせたりしていくことにより、思考力や判断力の育成にも効果があったと考えられる。

## 自己評価の改善

ワークシートによる自己評価と同時に授業中級友との比較を行わせることで、生徒自身が自分の学習態度や能力を把握することができた。

### (2) 課題

#### 論述による生徒の考えや感想の評価の進め方について

今回は、ワークシートの分析を中心に評価を進めてみたが、生徒の記述量や記述方法（グループで話し合ったりお互いに見たりして記入している部分）も関係して、明確に評価ができない面もあったが、そうした面をどのようにして補っていくか、評価問題の改善も含めて、今後の検討課題である。

#### 発表会や討論など記録に残しにくい評価の仕方について

1時間であれば、授業をビデオ撮影したり録音しておくことは可能かも知れないが、授業を毎時間記録しておくことは不可能である。したがって、発表や討論など、生徒同士で考えを深め合っていく授業では、記録を残して、後で評価のために再度視聴することが求められる。

#### 時間の確保について

指導計画の作成に時間をかなり割いたが、授業後の評価にもかなりの時間を費やした。時間的な問題の克服も大きな課題であると考えられる。

#### 自己評価・相互評価の処理の仕方について

自己評価や相互評価は、生徒自身の自己評価力の育成やよりよい価値観の育成を図ることができるが、教師が行う評価に、その自己評価をどのように反映させていくかは、まだ課題として残った。

#### 生徒へのフィードバックの在り方について

生徒へのフィードバックの方法については、単にペーパーテストやワークシートを返却するだけでなく、どのような能力を伸ばしたらいいのか、そのためにどのような学習が必要か、など改善点をまとめて生徒に伝える必要性を感じた。さらに、單元ごとに教科担任と生徒の簡単な面談のような時間の確保も考えられる。